

令和 3年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1473800611	事業の開始年月日	平成16年3月1日
		指定年月日	平成16年3月1日
法人名	特定非営利活動法人 都筑の丘		
事業所名	グループホーム 都筑の丘		
所在地	( 〒224-0057 ) 神奈川県横浜市都筑区川和町1705		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	27名
		ユニット数	3ユニット
自己評価作成日	令和4年1月26日	評価結果 市町村受理日	令和4年5月17日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

GH都筑の丘は都筑区でもひととき豊かな自然に囲まれた川和町にあります。広い敷地が最大限に活かされています。コロナ禍で家に帰れない、町へ散歩に行けない、気分転換ができない等のストレスと足腰の筋力の低下が、この庭があることでクリアできるのです。2000坪の土地の畑の部分の部分を少し減らしてボランティアの方々を整地して下さり適度な勾配をつけた遊歩道のあるイングリッシュガーデンを作りました。各所に休憩のためのベンチを置き、可愛い動物のオーナメントもいます。四季の花々を植え面会のご家族からも喜ばれています。また、庭の中央に八角形の屋根の白いガゼボ（西洋風あずまや）を作り入居者さんからは「遊園地の回転木馬みたい。」と喜ばれています。コロナが終息したらお花見や、野外コンサートをしたいです。全居室から出られるウッドデッキも老朽化のため新しくなります。完成が楽しみです。コロナ禍ではありますがいまままでと変わりなく生活できることがうれしいです。

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	令和4年2月25日	評価機関 評価決定日	令和4年4月19日

※新型コロナウイルス感染予防の為、事業所訪問をせずにオンライン調査を行っております。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

**【事業所の概要】**  
この事業所は、市営地下鉄川和町駅から徒歩10分ほどの自然豊かな環境にある。周辺には畑や竹林があり、天気の良い日には遠くに富士山が望める。事業所は2000坪の広い敷地に2階建ての2ユニットと平屋建ての1ユニットの建物が建っている。建物裏手のなだらかな広い敷地は、庭や畑として活用してきたが、昨年度からボランティアも手伝い、イングリッシュガーデンと農園を整備した。

**【利用者の今を大切にした運営】**  
利用者にとって大切なのは、「今」の生活が充実している事として、理念に沿って、利用者が日々、安全・快適に豊かな時間を過ごせるホームを目標にしている。今年度はホーム内外の環境を利用者がより快適に、より安全に過ごせるように整えた。また、開設時から実施している1日おきの午後の入浴も、利用者と職員が触れ合う大切な場、時間であるとして継続している。

**【自然環境を生かした豊かな生活の実現】**  
緩やかな傾斜のあるホームの裏手には、敷石を敷き詰めた遊歩道のあるイングリッシュガーデンと農園があり、四季折々の花木や植栽、季節の野菜が目を引く。庭の各所には可愛い動物のオーナメントが置かれ、プランターに見立てたお釜や火鉢の中に咲く花々は、散歩の楽しみになっている。散歩の途中に腰を下ろせるベンチや椅子が設置され、春は桜の下のベンチでゆっくりとお茶を楽しみながら花見ができる。コロナ禍により、屋外で実施する面会が天候に左右されずできるよう、また災害時の集合場所にもなるようにと、今年度、庭にガゼボ（西洋風あずまや）を建てた。ガゼボは、ホームの新しいシンボルとなっている。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホーム 都筑の丘
ユニット名	みずき、やまぶき、あじさい棟

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の名札の裏に5つの理念を明記してあります。その中に地域社会の一員として心豊かに生活を送れるように支援しますが入っています。研修時には復唱し確認しています。	開所時に作成した理念「個人を尊重する、個々の能力が最大限発揮できるように支援する」を、利用者の安心した生活を支える基本として位置づけている。理念を念頭にケアプランを作成し、ホームの環境などを活かした支援をしている。理念は、毎月の職員会議で確認している。また、入居を希望する家族には、ホームの理念を説明し、理解や共感を得ている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度もコロナ禍で地域の行事もホームの行事も出来ませんでした。地域のボランティアの方も来られませんでした。が、ホームの庭の造園作業を地域の方が通りがかりに見られ「いいですね。春が楽しみです。」等声を掛けて下さいます。	開所時から地域の方の協力を得て、ホームの運営をしてきた。現在はコロナの影響で地域の行事やホームの催しもすべて中断している。ボランティアが庭に敷石を敷いて、花を植えたり、畑の手入れや収穫を主体的に行っている。地域の方は通学や通勤時、また、散歩などでホームの横を通る時には庭を眺め、「きれいですね」と声をかけてくれるなど、四季折々の庭の風景を楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年12月に川和小学校の認知症サポーター養成講座を加賀原地域ケアプラザの方々と企画して参加しました。元気な5年生からパワーをいただき地域貢献もできました。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	通常は定期的に2か月に1度運営推進会議を行っていましたが今年は6月と12月が書面会議を行いました。8月10月はできませんでした。	運営推進会議を今年度は2回書面で開催し、報告書を参加メンバーに送っている。3月には完成したガゼボ（西洋風あずまや）のお披露目を兼ねて、感染症対策を施し、久しぶりに庭で運営推進会議を行う予定にしている。メンバーは、家族、地域包括支援センター職員や畑と花のボランティア、地域住民、民生委員、町内会長など多彩な顔触れで、ホームの運営に協力を得ている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今年度はできませんでした。コロナが終息したら区役所主催の認知症フォーラムや認知症サポーター養成講座のお手伝いをしたいです。	コロナ前は都筑区役所主催の認知症フォーラムや認知症カフェに協力してきたが、今年度認知症フォーラムはオンライン配信になった。昨年12月には、川和小学校の要請で、5年生対象に加賀原地域ケアプラザと共同で認知症サポーター養成講座を行った。また、生活保護受給者に区のケースワーカーが面会に訪れている。現在グループホーム連絡会は勤務時間内のオンライン開催になり、時間の調整をしてホーム長も参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしないという前提でケアを行っています。玄関の施錠に関しては周囲の環境、認知症であるが故に必要な方法であることをご家族に入室時に説明してご理解頂いています。	身体拘束適正化委員会は、管理者、副理事長、各ユニットのホーム長が参加メンバーになり3か月ごとに開催している。日々のケアの中で「やむを得ない」として拘束に準ずる行為や言動を行っていないかなど、起こりがちなケアを取り上げて話し合っている。話し合った内容は毎月のワーカー会議に挙げ、職員に意見を聞いている。ホーム内や庭は自由に行き来することができる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を3か月毎に開催し虐待の防止に努めています。入居者の体の痣、傷等は発見したら即管理者に報告状況に応じ写真撮影し原因を究明しています。入居者の安全と人権擁護を守る努力をしています。	虐待防止委員会は、身体拘束適性化委員会と同時開催している。神奈川県での虐待のチェックリストを使い、不適切ケアや声掛けについてセルフチェックを行った。その結果から不適切と思われるケアや声掛けがあった職員がいた。その結果を受け、事例検討会で話し合いを行った。職員は利用者の安全確保のために身体的、精神的な自由を安易に妨げているかを常に確認しながら、日々のケアに当たっている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様の権利を尊重し守ることの大切さを理念とあわせて職員に伝えています。成年後見制度は利用されている方から学んでいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時相談員が利用者、及び代理人の権利（第10条）義務（第13条）契約解除（第14条）をわかりやすく説明し、納得していただき同意を得て契約しています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	特に家族会は設置していませんが、ご家族が面会に来られることが多い土日祝日は管理者、ホーム長は出勤するようにしており、ご家族とお話するようにしています。そこからケアプランに繋がっています。	家族の面会が多く、行事の際や衣替え等のお手伝いもあり、開設時から良好な関係を築いてきた。コロナ禍以降もできるだけ家族と直接会える機会を設けるため、広い園庭を利用して屋外での面会を行ってきたが、家族からの「天気が悪いと面会が難しい」という声を受けて、今年度、大きなガゼボ（西洋風あずまや）を建てたことで、天候に左右されないで面会ができるようになった。また海外にいる家族に写真を見せたいので毎月の便りをメールで欲しいとの要望があり、希望する家族にはメールに写真を添付している。季刊誌「ハロー都筑の丘」を発行してホームや利用者の様子を伝えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議で出た問題点などはその場で解決し即実行するようにしています。ケアの質を落とさず効率よく業務を行うことで定時に帰れる努力をしています。	職員から1日おきの入浴を午後3時以降に開始すると、終了が5時30を過ぎ、後の業務に支障が出るので、他のグループホームに倣い、1日おきから2日おきにしてほしいという申し出があった。入浴は職員と1対1になれる貴重な時間で、体の変化なども分かり易い重要なケアであること、開所時から大切にしているホームの方針であることを職員に伝えただけで、入浴の開始時刻を早くすることで業務の見直しに繋がっている。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の能力、実績、貢献度などを公平に見極め、職員が向上心を持って安心して働けるよう努力している。介護職員処遇改善交付金は年3回支給しています。	65歳定年制ではあるが、その後も継続雇用を希望すれば従来通りの働き方ができる。また、子育て期間中は様々な事情に配慮し、休みや時短勤務などを取り易い環境ができています。今年度、社会保険労務士を顧問に迎え、ハラスメントについての研修を実施した。ハラスメントのセルフチェックを通して、自らの言動などを客観的に見直し、職員間で話し合うことで、今まで以上に風通しの良い職場環境を実現した。また、第三者的な立場の方にメンタル面なども相談できる体制づくりも行っている。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修はサービス担当者会議（カンファレンス）の時にしています。コロナ禍の今は社外研修を控えています。オンラインでの研修は積極的に参加したいと思います。	年間の研修計画に基づき、現在はホーム内研修を中心に行っている。また、できるだけ研修の機会を増やすためにオンライン研修も積極的に取り入れ、受講者はワーカー会議で報告をしている。キャリアパス制度があり、資格取得のための研修費用を補助したり、受講時間を勤務扱いにしている。介護福祉士や、ケアマネジャーの資格手当もある。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	横浜高齢者GH連絡会、神奈川県高齢者認知症GH協議会に加入している。コロナで交流の機会がなかったがオンラインでの会議での交流は心強かったです。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族に作って頂いたアセスメントをもとにしながらお話をします。入居初期は緊張や不安が多く、職員だけではなく、他入居者にも協力していただいて対応をしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の入居者様に対するの思い、ホームに対する希望など遠慮なく言え、ご家族が安心して頂ける環境を作っています。納得出来るまで見学や相談をさせていただいています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族、ご本人の不安な気持ちを理解し、根気よく対応をしています。帰宅願望、入浴拒否はあって当然と職員は理解して対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	9人の入居者と職員が下宿屋さんのように暮らせることが理想。それぞれの得意分野を職員が把握し協働しています。時にはトラブルも発生しますがそれも日常生活と捉えています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナで面会時間が15分となり、外での面会になり、マスクをしていてディスタンスも取っているのでご家族だとわからなかったり、聞こえなかったりするので職員が間に入り会話を繋いでいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会ができない今は手紙と電話でお話しすることを喜ばれます。コロナが終息したら家に行ったり外出をしていただきたいです。	家族以外の方との面会ができない為、友人や知人に電話をしたり、年賀状を出したりして、関係が途切れないよう支援している。入居前の生活習慣で化粧をする方の手伝いや、10時のお茶に甘いものを添えて出すなどを継続して支援している。また家事が得意な方々は季節に応じ、庭の畑で栽培している白菜を漬け物にしたり、梅の実や柚子でジャムやジュースを作っている。居室で国会中継をテレビで見ていた方が、「選挙に行きたい」と話すのを聞いた職員がそのことを家族に伝え、一緒に投票に出かけた。また写経をする方は、書き溜めた写経を家族がお寺に収めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	終日繰り返される帰宅願望や同じ話にうんざりされながらも話しかけたり歩きまわる方が立ちあがると「危ないよ」と声を掛け職員にしらせてくれる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者様は亡くなりましたがご家族はその後ボランティアとして来てくださっています。コロナが終息したらまた来ますと年賀状を頂きました。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	帰宅願望、入浴拒否はあって当然と受け止め、ご本人の気持ちを大切にしながら対応しています。困難な時はご家族に協力していただくこともあります。	入浴や散歩の時間は利用者にとって職員とゆっくり話ができる大切な時間として、その時の話の内容を日々の報告書に記録している。話の内容はワーカー会議で共有し、ケアプランに反映させることもある。利用者同士でも「ラーメンが食べたい」とか、春先には「以前よく行っていたホテルに行きたい」「花見をしながらお茶を楽しみたい」などタイムリーな話題がよく聞かれる。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に幼少時から現在までの生活をご家族と一緒にアセスメントを行います。職員とお話しの中でご家族も知らなかったエピソードなどもありお知らせするとご家族からも喜ばれます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の体調、気分、天気等を視野に入れながら過ごしていただいています。得意なお手伝いをしていただくことで職員も助かっています。		
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	身体の状態や認知症の進行はその都度対応方法を職員で話し合いご家族に相談、報告しています。介護計画の目標が今より低下しないよう援助目標実施をチェックし日々の記録と連動しています。	開所以来、利用者の毎月のケア記録「報告書」と医療情報を家族に送り、利用者の生活の様子や状態変化などを家族にも共有してもらっている。毎月のワーカー会議で全員分のケアカンファレンスを行い、モニタリングをしている。更に毎月のケア記録と医療情報をアセスメントシートに記録している。ケアプランは通常は6か月ごとに見直しをするが、変化があった際は医療情報等を反映させ、都度見直している。職員は常にケアプランのサービス内容を念頭に置いてケアに当たっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は毎月報告書をご家族に送付しています。職員間の業務日誌、連絡ノートは出勤したらすぐに目を通し情報の共有をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	川和町町内会、川和地区福祉ネットワーク、地元の消防団、川和小学校、地域包括センターなど多くの協力を得て多機能化に取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	書道、絵手紙、音楽療法は今年度もできませんでしたがコロナが収束したら復活します。地域ボランティアの方達のご協力、近隣の方たちから見守り助言などを頂きながら安全で豊かな暮らしが出来るよう努力いたします。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	さとう内科クリニックの訪問診療に際しては全入居者のご家族から同意をいただいています。緊急時はDrから直接ご家族に電話をして説明をしてくれるのでご家族も安心されています。	利用者全員が協力医(内科)の月2回の訪問診療を受けている。精神科や泌尿器科医の月1回の訪問に加え、皮膚科、眼科、整形外科など必要に応じた訪問診療も受けられる。協力医は24時間オンコール対応で、医療的な処置は医療保険で対応してくれる。できるだけ家族の医療費の負担を増やしたくないというホームの方針もあり、医療連携体制加算は取っていない。訪問歯科医も週1回、必要な治療に訪れている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診の看護師の方々には褥瘡の処置方法や今はコロナの感染予防のための消毒方法やゾーニングなど教えていただき心強いです。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはホーム長や管理者が同行し、カンファレンスにも参加して病院との連携をはかっています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	GH都筑の丘の「重度化に関する指針」を基盤とし、家族、ご本人の思いを大切にしておかかりつ医のさとう内科と連携しながら終末期に向けたケアに取り組んでいきたいと思えます。	開所時からグループホームは「生活を楽しむ場」として運営してきたが、入居が長くなるにつれ、最後までホームで過ごして欲しいという家族のニーズも出ている。入居時に重度化した場合の説明をし、再度、終末期に医師も同席して意思確認を行い、できるだけ家族の希望に寄り添う方針にしている。今までに1名の方の看取りを行っているが、今後もケースバイケースで対応していく方針にしている。	グループホームは生活を楽しむ場所で、日常生活を充実させたいというホームの方針もあり、積極的な看取りはしていません。入居が長くなるにつれ家族のニーズの変化もあることや、利用者の重度化を踏まえ、急変や重度化に備えた研修を期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当、救命措置、AEDの使い方を消防署の指導を受けましたがこの2年コロナのため消防署の協力が得られずできません。コロナが収束したらすぐに訓練をしたいと思えます。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	認知症のため避難することが理解できない方がいるのでその方達の避難方法を考えています。認知症故に他所での避難生活は難しく広い敷地を利用してホームでの避難生活を考えています。	今年度は1月に夜間想定火災の避難訓練をユニット毎に利用者も全員参加して行った。訓練後は各ユニットの課題を洗い出し、今後の対策を検討している。3月には夜間の地震を想定した訓練を予定している。訓練は夜間想定ということもあり、夜勤専従の職員も参加して行っている。非常災害時には事業所前3軒の住民が見守りなどの協力をしてくれる他、普段から地域の一員として認知され、様々な協力関係ができています。備蓄や備品の備えは近隣の方の分も含めて事業所内と、近隣にある法人の倉庫に7日分を備えている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症の進行により本来のその人らしさが失われてしまうことがあります。、その方の生活歴や性格を理解し尊厳を守るような言葉かけや対応を心がけています。	理念の第一項に「個人の尊重とプライバシーの遵守」を掲げ、職員は利用者がその方らしさを発揮できるような支援を常に心がけている。研修計画に、利用者、家族への接遇を取り入れ、家庭的ではあるが、きちんと一線を画したケアや接遇を学んでいる。個人情報保護にも努め、パソコンはホーム長以上は各1台ずつ所有して個別に管理している。他の職員が使用するパソコンはオフラインにして、ケア記録の報告書作成などに使用している。個人情報を含む書類は施錠管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の思いや気持ちが表現できない方の思いをくみ取り、表現出来るような雰囲気を作っている。散歩、余暇支援などの参加も自由で入浴拒否の時も無理じいはしません。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調、気分を優先して一人ひとりのペースを大切にしています。一日のスケジュールは特に決めず、天気、入居者の希望を優先しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で選んで着られない方は職員がお手伝いして好み季節に合ったものを話しながら着て頂きます。家族が用意できない時は値段、その方の好みサイズを熟知した管理者が家族了解のもと購入しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳、食器洗い、食器拭き等の得意の役割分担をしています。出前をとったりテイクアウトをすると喜ばれます。献立がマンネリ化すると管理栄養士に伝えメニュー変更しています。手作りおやつも工夫しています。	管理栄養士が献立の作成と、地元の商店への食材発注をしている。手造りの食事を大切に職員が3食とも調理を担い、利用者もできることを手伝っている。調理の際の香りや音が五感を刺激し、それによって利用者に「今は何時ごろ」という感覚を持ってもらうことも大切にしている。ホームの畑で採れた旬の野菜や、利用者が手伝って漬けた漬け物やジャムなどが食卓に上り、彩りを添えている。また、利用者のリクエストでラーメンの出前やハンバーグのテイクアウトを取り入れたり、敬老の日の祝い膳には老舗料亭のお弁当を提供して喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士によるバランスの良い献立に季節の旬の物を取り入れてもらっている。歯の状態、嚥下低下に合わせてたり、減塩などの指導をしてもらっています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎週、歯科衛生士による口腔衛生を行っています。職員は、一人一人の口腔ケアの方法を指導していただき、毎食後に必要な介助、歯磨きの見守り声かけをしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	リハビリパンツを使用している方でも時間でトイレにお連れしています。トイレに行くことが生活の中のリハビリと捉えています。寝具は汚れても丸洗いでできる物を用意していただいています。	出来るだけ布パンツで気持ちよく過ごしてもらいたいというホームの方針がある。初めは布パンツだった方も加齢とともにパッドやリハビリパンツが必要になってくるが、利用者の排泄パターンや特徴を把握して、きめ細やかな対応でトイレでの排泄を支援している。夜間は睡眠を優先しているが、目を覚ます方は誘導してトイレ介助をしている。夜間もポータブルトイレを使用しないで、トイレに行くこともリハビリの一環として、トイレ誘導に努めている。トイレの清掃に加え、臭気がないように配慮している。また感染症対策として以前から行っていた消毒も念を入れて行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が不穏の原因の1番であり認知症の発症原因であることを職員は理解しています。1日2回のラジオ体操、ストレッチ、歩行、散歩をしています。かかりつけ医に相談しながら便秘薬の調整をしています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	1日おきの入浴ですが毎日入りたい方には時間調整しながら入っていただいています。拒否が強い方は無理じいはせず職員間の連携プレーで気持ちよく入浴できるようにしています。	入浴は利用者が1日の疲れを癒し、職員とゆっくり話をしながらくつろぐ大切な時間でもあり、全身の身体状況を確認できることから1日おきに午後2時30分以降に入っている。冬場は庭に実る柚子の実を浮かべて柚子湯を楽しんだり、端午の節句には菖蒲湯で季節感を出している。冬場のヒートショック対策に脱衣場や浴室にエアコンを備えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の余暇支援、体操、散歩、お手伝い、おしゃべり等が夜間の良眠に繋がります。疲れたら居室で適度に休んだり、昼寝をしていただいています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	与薬時の誤薬の防止のための服薬管理表を職員二人で声を出し確認をし、与薬担当の職員が間違いなく与薬するまで目視確認をする。薬の変更時は連絡ノートに薬状書を貼り、申し送り、引き継ぎを徹底する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人一人の得意分野、好きな事を職員が理解して手伝っていただいています。役割があることが自信になっています。さり気なく回想法を取り入れながら楽しくしています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの感染予防のため外出はできませんでしたが遊歩道の散歩、畑の収穫等を楽しむことができました。コロナが終息したら家族と一緒に遠足、外出に出かけたいと思います。	利用者の下肢筋力の低下などを懸念し、昨年度から裏の緩やかな傾斜のある広い土地を活かして、利用者が今まで以上に散歩がしやすい遊歩道を備えたイングリッシュガーデンと農園を整備した。今までの植栽に加え、更に多くの花木を植え、所々に動物のオーナメントや椅子やベンチを配し、庭で活動しやすい環境を作った。天気の良い日には庭で体操をしたり、歌を唄ったり、お茶を楽しむこともある。また、季節の野菜や果実を収穫したり、仏壇に供える花を摘む方もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症であることによる、金銭トラブル、妄想等の出現があり金銭はお預かりしていません。入居者には家族が預っていることをその都度お話しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はご家族の了解のもとにホームから電話をかけたり、折り返しをして頂きます。手紙は喜ばれますが返事が書けなくなった方には職員が代筆をすることもあります。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天気の良い日は窓を開放し自然の風を取り入れています。CDの曲も季節、好みで選曲しています。窓が大きく明るすぎることもあるので程良い明るさと音量を意識しています。	南側の庭に面したダイニングとリビングは、天気の良い日には明るい日差しや、季節ごとの花々や木々が眺められる居心地の良い共有空間になっている。ピアノやテレビの置かれたリビングにはソファを置き、ダイニング側を気にせずくつろげる空間がある。共有空間には空気清浄機付きの加湿器を置き、時間を決めた換気で、感染症対策をしている。フロア内は清掃や整理整頓が行き届き、臭気や手が触れる部分の消毒にも気を配っている。リビングに面したウッドデッキとそこに続くテラスは今年度全面改修され、階段がスロープになったことで、緊急時、車いすを使い庭に降り易くなった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファが2つ置いてあり顔が向きあわないように配置しています。ソファが一人になれる空間にもなっています。玄関、廊下にも椅子がおいてあり仲良し二人で座ったり一人で過ごされる方もいます。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある家具、お気に入りのカーテンなどそれぞれの入居者と家族が工夫して生活されていますが、認知症の進行により危険物と判断した場合はご家族に相談し撤去しています。	テラスに面した居室には広いクローゼット、エアコン、照明、レースのカーテンが備え付けられている。利用者は馴染みの家具やテレビ、仏壇などを持ち込み、自作の作品や写真を飾り、趣味の本などを置いている。入居時には家族と一緒に家具の配置を決めているが、ADLの変化や生活状態に応じて配置を変えることもある。季節ごとには家族も手伝い、衣類の衣替えをしている。掃除は、職員が手伝い、できるだけ利用者にしてもらっている。利用者は居室で趣味の写経をしたり、好きな歌手のDVDを見るなどしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	広い廊下とリビング、ダイニングを介して見守りができるように対面式キッチンにしています。食事の盛り付け、配膳、食器拭き、洗濯物干し、洗濯物畳みなどの得意なお手伝いをさせていただいています。		

